

# Hello! FUJISEI

No.31

(財)生命保険文化センターでは、「平成22年度 生活保障に関する調査」結果をまとめました。この調査は、人々の生活保障意識や生命保険の加入状況をはじめとした生活保障の準備状況を時系列で把握することを目的に、3年ごとに実施しています。前回（平成19年度）以降、生活保障準備を取り巻く環境は大きく変化し、調査結果にも意識・実態の両面で変化が現れてきています。

自分自身や家族の将来をどのようにしたいか、そのための経済的な準備をどうするのかという、具体的な生活設計を立てているかについては、「生活設計あり」は40.1%、「生活設計なし」は53.7%となり、具体的な生活設計を立てている人は4割台になっています。前回と比べると、「生活設計あり」が6.5ポイント増加しています。

現在行っている経済的な準備の中で重要と考えている項目をみると、男性では、「自分が入院した場合の準備」が46.9%と最も高く、以下「自分が万一の際の準備」（44.9%）、「自分の介護資金の準備」（24.7%）の順、女性では、「自分が入院した場合の準備」が38.2%と最も高く、以下「配偶者が入院した場合の準備」（35.0%）、「配偶者が万一の際の準備」

## 生活設計を立てていますか？

# 環境変化によって 経済的準備も変化

備」（31.8%）の順となっています。介護資金の準備が増加しています。時系列でみると、男性で「自分の

### 家庭内で重視する経済的な準備項目

(財)生命保険文化センター「平成22年度 生活保障に関する調査」

